

エコアクション 21

2023 年度

環境経営レポート

対象期間:2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日



発行日:2024 年 10 月 5 日

株式会社ショセキ

I．環境経営方針

＜基本方針＞

株式会社ショセキは、ものづくりを主とする企業活動において環境保全に対する取り組みを重要な責務と捉え、お客様や社員の幸福を追求するとともに、資源の有効活用と環境負荷の低減に取り組むことにより、自社の継続的発展と循環型社会の実現を目指します。

＜行動指針＞

- ・環境マネジメントシステムを継続的に改善し、社員の環境への意識の向上に努めます。
- ・環境負荷の削減に努め、環境に配慮した企業活動を推進します。
 - ◆省エネルギー活動により、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ◆3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底し、資源の有効活用と廃棄物の削減に努めます。
 - ◆継続的な改善活動により、品質と作業効率の向上に努めます。
 - ◆生産工程で使用する資材を適正管理し、環境影響の少ない製品を使用するとともに、社員の健康維持に努めます。
- ・環境関連の法令、規制、協定等を遵守します。
- ・この環境経営方針は、ホームページ等で広く一般に公開します。

制定日 2006 年 9 月 1 日

改訂日 2018 年 9 月 1 日

2023 年 4 月 3 日

株式会社ショセキ

代表取締役社長 宮村 慎一郎

Ⅱ.事業者活動の概要

1. 事業社名及び代表者名

- 事業者名 株式会社ショセキ
- 代表者名 代表取締役社長 宮村 慎一郎

2. 所在地

- 本店 〒920-0961 金沢市香林坊 1-2-24
- 本社 〒929-0201 白山市鹿島町 2-17-1
- 富山支店 〒930-0084 富山市大手町 5-1
- 福井支店 〒910-0006 福井市中央 1-3-5
- 東京支店 〒104-0045 東京都中央区築地 6-4-8
- 新聞印刷部 (白山印刷センター)
〒929-0201 白山市鹿島町 2-17-1 (株)北國新聞社 白山印刷センター内
(白山印刷センター別館)
〒924-0057 白山市松本町 2506 (株)北國新聞社 白山印刷センター別館内

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

- 責任者 営業部 清水 康幸
- 連絡先 TEL:076-233-1151 FAX:076-278-7772 e-mail simizu@syoseki.co.jp

4. 事業の内容及び認証・登録範囲

- 全活動 一般商用印刷物、書籍、事務印刷物等の印刷・製本、新聞印刷

5. 事業規模

- 設立年月 1947 年 2 月
- 資本金 5000 万円
- 製品出荷額 37 億 8600 万円(2023 年度)
- 従業員数 120 人
- 延べ床面積 9,156,930 m²

6. 認証対象事業所

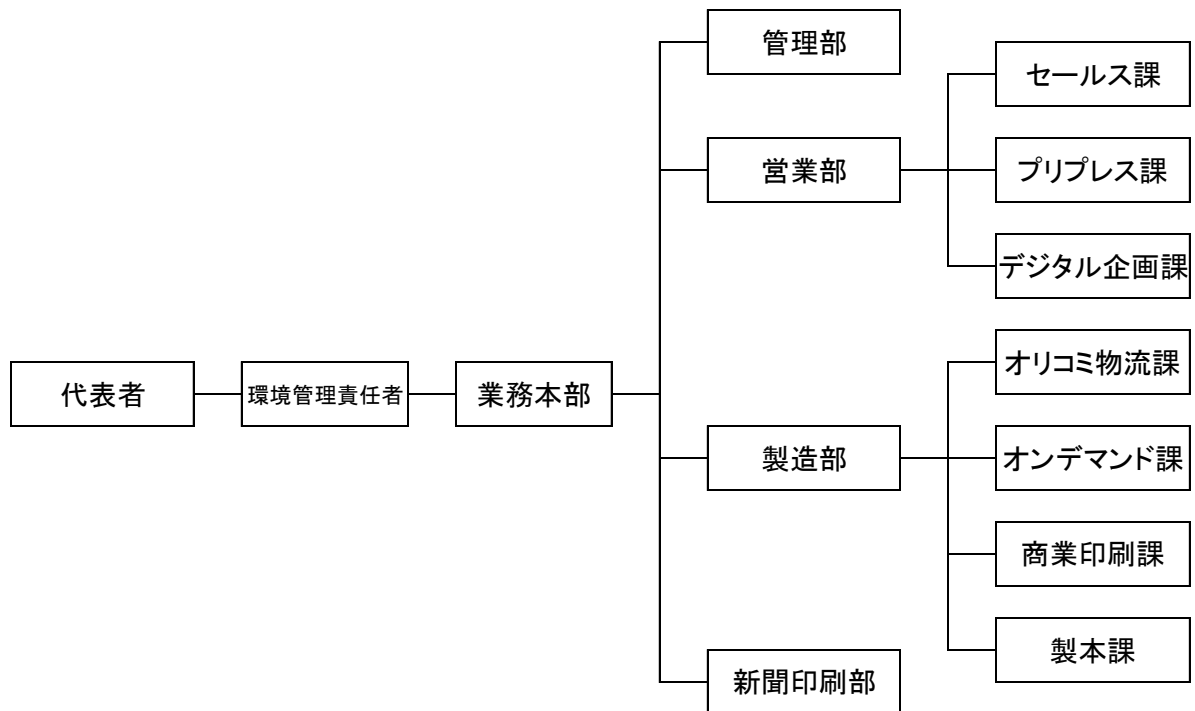
- 全組織 本社・本店・富山支店・福井支店・東京支店・新聞印刷部
なお、本店及び3支店は北國新聞社のビル内に常駐者が数名いますが、賃貸のため負荷集計ができないので、負荷の削減の取り組みで対応しています。

7. 環境活動レポートの対象期間

- 対象期間 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

Ⅲ. 実施体制

株式会社ショセキ
環境マネジメントシステム組織図



【責任者の役割】

責任者	権限と役割
代表者	・環境方針の策定と見直し ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針に基づく目標の承認 ・実施に必要な資源(ヒト・モノ・カネ)の準備 ・代表者に活動全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者	・環境マネジメントシステムの構築、運用、見直し ・環境関連法規の遵守と評価の実施 ・環境方針に基づく目標の設定 ・部門長への連絡事項の周知
部門長	・自部門における活動の実施と環境経営方針の周知徹底 ・部員に対する教育訓練の実施
従業員	・環境経営方針と、その取り組みの対する重要性の理解と実施 ・積極的な活動への参加
内部監査員	・内部監査の実施と結果の報告 ・監査結果に基づく是正勧告

IV.環境経営目標

■本社

項目	単位	2021 年度 実績	2022 年度 目標	2023 度 目標	2024 年度 目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /百万円	1,645	1,629	1,612	1,596
廃棄物排出量	kg/百万円	564	558	553	547
再資源化率	%	98.7	96.0	96.0	96.0
水資源使用量	m ³ /百万円	1.80	1.80	1.80	1.80

- ・CO₂排出量は 2021 年度の実績を基準として、毎年 1%の削減を目標とする
- ・廃棄物排出量は 2021 年度の実績を基準として、毎年 1%の削減を目標とする
- ・再資源化率は、毎年 96%以上の確保を目標とする
- ・水資源使用量は 2021 の実績を考慮し、毎年 1.8/百万円の確保を目標とする

■新聞印刷部(白山印刷センター別館)

項目	単位	2021 年度 実績	2022 年度 目標	2023 度 目標	2024 年度 目標
CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	3,456,005	3,421,445	3,387,231	3,353,358
廃棄物排出量	kg	880,146	871,345	862,631	854,005
再資源化率	%	94.0	94.0	94.0	94.0
水資源使用量	m ³	5,530	11,690 ※2022 年実績	11,690	11,690

※水資源量は 2022 年実績を基準とする

2022 年度より、新聞印刷部の目標設定について、業務受託料の見直しがあった場合に大きく数値が変動することもあり、従来の原単位での設定から絶対量への設定に切り替えました。

- ・CO₂排出量は 2021 年度の実績を基準として、毎年 1%の削減を目標とする
- ・廃棄物排出量は 2021 の実績を基準として、毎年 1%の削減を目標とする
- ・再資源化率は、毎年 94%以上の確保を目標とする
- ・水資源使用量は 2022 年度の実績を考慮し、毎年 11,690 m³/百万円の確保を目標とする

※電力排出計数:0.499 kg-CO₂/kWh

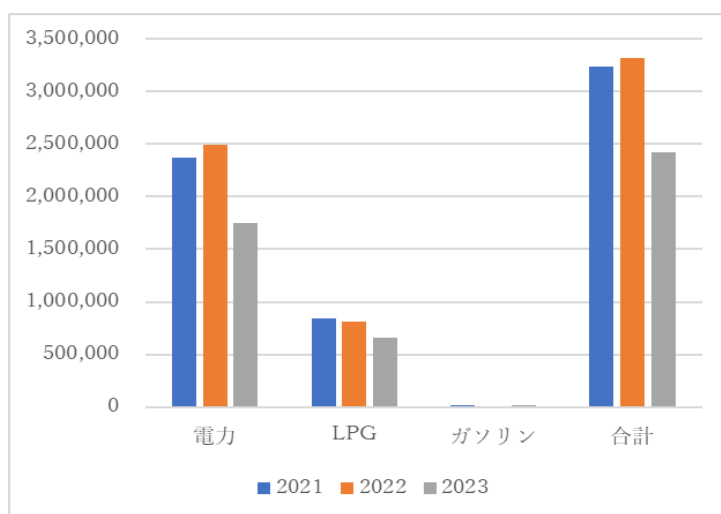
V 環境への負荷の調査結果と目標達成度の詳細

本社

① 二酸化炭素排出量

項目	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	前年差	前年比率
電力	kg-CO ₂	2,368,367	2,496,518	1,746,867	-749,651	69.9%
LPG	kg-CO ₂	847,003	808,728	658,930	-149,798	81.4%
ガソリン	kg-CO ₂	18,345	13,589	16,510	2,921	121.5%
合計	kg-CO ₂	3,233,715	3,318,835	2,422,307	-896,528	72.9%

< 二酸化炭素排出量推移 >



< 二酸化炭素排比率 >

	2021	2022	2023
電力	73.2%	75.2%	72.1%
LPG	26.2%	24.4%	27.2%
ガソリン	0.6%	0.4%	0.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

② 廃棄物排出量

項目	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	前年差	前年比率
再生利用可 廃棄物	kg	1,095,170	1,144,100	934,775	-209,325	81.7%
再生利用不可 廃棄物	kg	14,060	14,380	14,700	320	102.2%
合計	kg	1,109,230	1,158,480	949,475	-209,005	81.9%
再資源化率	%	98.7%	98.7%	98.4%	0	——

③ 水資源使用量

項目	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	前年差	前年比率
上水道	m ³	3,546	3,592	3,958	366	110.1%

<本社 目標達成度>

項目	単位	2023 年度 目標	2023 年度 実績	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	1,612	1,050	○
廃棄物排出量	kg/百万円	553	411	○
再資源化率	%	96.0	98.4	○
水資源使用量	m ³ -CO ₂ /百万円	1.80	1.71	○

■本社の取り組み結果について

<エネルギー>

2023 年度の二酸化炭素の総排出量は、2022 年度に対して 896,527 kg-CO₂減となりました。

項目別では、電力は 749,651 kg-CO₂減、LPG は-149,798 kg-CO₂減となりましたが、ガソリンは 2,921 kg-CO₂の増加となりました。

電力については、売上自体は増加しましたが、生産設備を使用した印刷物自体の売上は減少しており、それ以外の非製造の分野でその減少をカバーしたことが全体での売上増加の要因となります。印刷物自体の売上の減少に伴い、生産設備の電力使用量を削減したことが、2023 年度の二酸化炭素排出量の削減の大きな要因です。また、二酸化炭素排出係数の見直しを行い、2014 年度の係数0.647 から 2022 年の 0.499 に変更したことも要因の一つとなります。

LPG についても電力と同様に生産設備の稼働減により削減しましたが、それと併せて、排ガス抑制設備の導入により使用量を抑えられたことも要因となります。

ガソリンについては、新規や既存顧客への積極的な訪問を方針として取り組んだことで、その結果としてガソリンの使用量増となりました。

<廃棄物>

廃棄物の排出量は、2022 年度に比べて 209,005 kgの削減となりました。廃棄物についてもエネルギーの削減と同様、印刷物の製造が減少したことで、主に紙・段ボールの排出量が大きく減少したことにより、前年と比べて大きく削減できた要因となります。

※なお、集計に含まれていない本店および 3 支店の廃棄物については、入居するビルの指定する廃棄方法に準じて処理しています。

新聞印刷部

■白山印刷センター別館

①二酸化炭素排出量

項目	単位	2021 年	2022 年	2023 年	前年差	前年比率
電力	kg-CO ₂	3,456,005	3,264,457	1,875,854	-1,388,603	57.4%

②廃棄物排出量

項目	単位	2021 年	2022 年	2023 年	前年差	前年比率
再生利用可 廃棄物	kg	827,951	778,732	480,387	-298,345	61.6%
再生利用不可 廃棄物	kg	52,195	51,143	35,493	-15,650	69.3%
合計	kg	880,146	829,875	515,880	-313,995	62.1%
再資源化率	kg	94.0	93.8	93.1	-0.7	——

③水資源使用量

項目	単位	2021 年度	2022 年度	2023 年度	前年差	前年比率
下水使用量	m ³	5,530	5,137	4,151	-986	80.8%
地下水使用量	m ³	—	6,553	4,919	-1,634	75.0%

※地下水はこれまで集計していませんでしたが、2022 年度より集計します。

＜白山印刷センター別館 目標達成度＞

項目	単位	2023 年目標	2023 年度実績	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	3,387,231	1,875,854	○
廃棄物排出量	kg	862,631	515,880	○
再資源化率	%	94.0	93.1	△
水資源使用量	m ³ -CO ₂	11,690	9,070	○

■白山印刷センター

2023 年 8 月より本稼働を開始。2023 年 7 月より集計した結果です。

①二酸化炭素排出量

項目	単位	2023 年
電力	kg-CO ₂	1,027,090

②廃棄物排出量

項目	単位	2023 年
再生利用可 廃棄物	kg	296,410
再生利用不可 廃棄物	kg	5,540
合計	kg	301,950
再資源化率	kg	93.1

④ 水資源使用量

本社敷地内にあり、使用量は本社数値に含まれています。

■新聞印刷部の取り組み結果について

（白山印刷センター別館）

白山印刷センター別館では、2023 年 8 月より、受託新聞印刷の主となる媒体の印刷業務を、新たに稼働した白山印刷センター別館に移管したことにより、稼働が大きく減少したことにより、すべての項目で昨年の数値を下回りました。業務量は減少しましたが、活動は継続して実施しており、2024 年度の実績をもとに新たに目標の見直しを行い、目標達成に向けて、改めて環境経営活動を行ってまいります。

（白山印刷センター）

2023 年 8 月より本稼働を開始、これまで白山印刷センター別館で印刷していた受託新聞の主となる媒体を印刷しています。2023 年 7 月より集計を開始しましたが、1 年を通した年間の数値は 2024 年度の集計分となるため、2024 年度の集計結果をもとに目標設定を行い、環境経営活動を行ってまいります。

VI 2023 年度の具体的な取り組み(活動計画)と実施状況の確認

1. 二酸化炭素排出量削減に向けての対策と評価

計画

(生産プロセスに関して)	評 価	部 署
セット替え時間が少なくなる生産計画に取り組む。	◎	製造/新聞
セット替え時間の短縮を進める。	◎	製造
損紙(不具合品)の低減に取り組む。	◎	製造
作業のムダをなくすために5Sに取り組む。	◎	全社

(空調に関して)	評 価	部 署
冷房28℃・暖房20℃を基準として定め、空調の適温化を徹底する。	○	全社
工場内の適所に寒暖計を設置し、過剰な空調になっていないか監視する。	○	製造/新聞
定期的に空調設備の清掃を実施し、効率の良い運転を徹底する。	◎	全社

(照明に関して)	評 価	部 署
照明を間引きし、過剰な照明を控える。	○	全社
昼休みや残業時に不要なエリアの照明を消灯する。	△	全社
倉庫・トイレ・階段等の照明の常時消灯・適時点灯を徹底する。	◎	全社

(生産設備に関して)	評 価	部 署
印刷機械や周辺機器は、可能な限り未使用時の電源を OFF にする。	○	製造部
OA機器で、使用頻度の低いものについては、常時電源OFFとし、使用時に起動する。	◎	全社

(自動車に関して)	評 価	部 署
自動車を運転する際は、エコドライブ、安全運転に努める。	◎	営業部
社有車の更新・新規導入の際には、低排出ガス・低燃費等の環境に配慮した車両を購入する。	-	管理部

2. 廃棄物低減に向けての対策

(排出量の削減に関して)	評 価	部 署
各工程の品質チェックを徹底し、不良品の発生を低減する。	◎	製造
従来以上に購買管理を徹底し、無駄買いによるロスを抑える。	◎	全社
不必要な大判サイズのコピーなどを減らし、文書のスリム化を図る。	◎	全社
社内LANを利用し、回覧文書等のペーパーレス化を図る。	◎	全社
印刷・製本の作業予備数量の見直し再検討を行う。	○	製造
印刷インキ使用量削減への取り組み	○	製造

(リサイクルに関して)	評 価	部 署
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収・詰め替え再利用を推進する。	◎	管理部
産業廃棄物及び一般廃棄物の分別に際し、分別ボックスを設置し、出来る限り資源ゴミとして回収できるようにする。	◎	全社

3. 水排出量削減に向けての対策

(使用量削減に関して)	評 価	部 署
手洗い場やトイレなどに節水を促す掲示物を掲示する。	◎	管理部
必要以上に水が出すぎないように、水圧を調整して水の使用量を抑える。	○	全社

4. 化学物質管理強化等の取り組み

(その他)	評 価	部 署
社内の備品等についてはグリーン購入適合品を優先的に購入使用する。	○	管理部
PRTR法に関して、当社は指定物質の取扱量が規定値未満であるため、指定事業所には相当しないが、指定物質および指定物質を含む資材の取扱いについては厳重に管理する。	◎	製造
有害性のおそれのある化学物質を含め全ての溶剤を特定して管理を行う。常に SDS を備える。	◎	製造
現在、主に使用している大豆油インキの使用をさらに推進し、100%を目指す。	◎	製造
印刷の新技术に関して、常に情報を収集し、知識を高め、設備更新の際に導入を検討できる体制を整える。	○	製造
技術講習会への参加や資格の取得に積極的に挑戦し、印刷技術の向上に努め、作業・資材の無駄を省く。	○	全社
データ通信を利用した入稿、PDFによるオンライン校正等に積極的に取り組む	◎	全社

◎徹底した対策がなされている。 ○対策がなされているが、まだ改善の余地がある。

△多少実施されているが、成果となるにはまだまだ、課題がある。 ×まったく実施されていない。

VII 緊急事態への対応

環境上の緊急事態に備えて、発生時の被害を最小限にとどめるよう各職場で緊急事態に対する訓練を実施しました。

【訓練実績】

- オイル漏れ 本社(2023 年 6 月実施)
- 廃液流出 白山印刷センター別館(2023 年 6 月実施)

VIII 2023 年度の主な新規導入設備

・ウチダテクノ	紙折り機 テーピット WX-II	2023 年 11 月導入
・エスエムゼット	自動版曲げ機 オートベンダー	2024 年 1 月導入
・光文堂	宛名印字機 DA-7500	2024 年 2 月導入
・光文堂	AUTO CTM	2024 年 3 月導入

その他にも、業務の効率化や新分野へのチャレンジに向けた設備、ソフトウェアを導入し、新規顧客や新たな受注の獲得に向けた取り組みを進めています。

IX 2024 年度に向けた取り組み(活動計画)

2024 年度は、2023 年度の活動計画を継続し、適宜更新を進めながらエコアクション 21 への取り組みを強化していきます。また、白山印刷センター別館では新たに稼働した白山印刷センターへの一部業務の移管による現状での数値の集計と、新たに稼働した白山印刷センター数値の集計を実施し、新たに目標を設定して環境経営活動を進めていく準備を進めていきます。

X SDGs の取り組み

SDGs は「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015 年 9 月の国連サミットで世界 193 カ国が賛同、全会一致で採択された、持続可能な社会の実現のために掲げられた目標です。

当社は企業活動を通じて、持続可能な社会の実現のため積極的に SDGsに取り組めます。

<主な取り組み>

■水なし印刷

- ・湿し水を使用しないため、湿し水から発生する VOC を根絶
- ・湿し水に含まれる IPA やエッチ液などが不要
- ・印刷効率改善による用紙、インキ、電気代の削減
- ・湿し水不要による温室効果ガス削減 など

(貢献項目)



■抗菌印刷

「抗菌印刷」とは、印刷物に抗菌剤入り印刷用インキで表面をコーティングすることで、細菌の増殖を抑制する抗菌印刷に取り組んでいます。細菌の増殖を抑えることができるので人体への影響を限りなく小さくすることができます。

(貢献項目)



■CO2 排出量削減

・ECO リターン

輪転機ドライヤーの脱臭装置の廃棄ガスをドライヤー内部に戻す(リターン)ことにより、ドライヤーのガス燃費の向上に取り組んでいます。

・低乾燥インキ

従来型オフ輪インキと比較して、紙面温度を下げる事が可能な低温乾燥インキを使用することにより、輪転機ドライヤーのガス使用量を削減できます。

(貢献項目)



その他、様々な活動を通じて、SDGsへの取り組みを推進しています。

XI 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反訴訟等の有無

No.	名 称	適用施設・業務等	法的要求事項の内容	評 価
1	廃棄物の処理 及び清掃に関する法 律	廃プラスチック類、 金属くず 紙くず、 廃アルカリ PH12.5 未満、12.5 以上は特管物	産業廃棄物分別保管基準の遵守	○
			産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	○
			産業廃棄物管理票による管理	○
			事業所内での焼却の禁止	○
			マニフェスト交付状況報告	○
2	下水道法	下水	排出量の把握(50 m ³ /日)	○
			指定水質の下水への排水	○
3	PRTR 制度(化管法)	第1種指定化学物質	指定物質の特定	○
			排出量の把握と報告義務の確認	○
			SDS 管理	○
4	PCB 特別措置法	取扱無し(H31年1月5日処分完了)	届出と変圧器の適切な保管	—
			PCBの適切な破壊処理	—
5	家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫 等	廃棄物の適切な処置及び資源の有効活用	○
6	自動車リサイクル法	社用車	自治体に登録された業者へ引き渡し	○
7	消防法	施設全般	設備の設置と点検	○
8	騒音規制法	印刷機	設置届け提出	○
9	振動規制法	印刷機	設置届け提出	○
10	省エネ法	施設全般	エネルギー使用 1,500kl 未満(原油換算)	○
11	フロン排出抑制法	冷暖房設備	7.5kW 未満 簡易点検 1 回/3 ヶ月	○
			7.5kW 以上 50kW 未満 簡易点検 1 回/3 ヶ月	○
			定期点検 1 回/3 年	○
			50kW 以上 簡易点検 1 回/3 ヶ月	○
			定期点検 1 回/1 年	○

現状関連法規制の一覧表及びそれらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規制の違反及び苦情はありませんでした。

なお、関係当局より違反・訴訟等の指摘は、過去 3 年間一度もありませんでした。環境関連法規に関しては定期的に遵守状況をチェックしています。

XII 代表者による全体取り組み状況の評価及び見直しの結果

<2023 年度の結果について>

2023 年度は、一般営業では印刷物の売上は減少したものの、印刷以外の分野での売上が大きく伸びたことで、全体では 2022 年度に比べて増収となった。印刷物の売上減の結果が示すように、機械の稼働が落ちたことで、電気・LPG の使用量が削減されたことが目標達成の大きな要因ではあるが、環境活動の成果も要因の一つであり、一定の評価はできる。廃棄物については、廃棄物を削減したうえで増収となったことは、環境負荷の小さい商品の売上が伸ばすことができたことの現れであり、この結果は大きく評価できる。ただし、印刷物の受注獲得は会社の最重要課題であるため、2024 年度は印刷での売上を戻すことを必達の目標として全社で取り組んでいく。

新聞印刷では、新工場の稼働が開始し、大きな変化があった年となった。拠点が 2 箇所になったことで、エネルギーや資源の購入量は増加することが見込まれる。各数値の集計をしたうえで、しっかりと目標を立て、目標必達にむけて取り組んでいく。

2024 年 5 月 23 日

代表取締役社長 宮村 慎一郎